



## デイズニーランド研究

### 世俗化された天国への巡礼

宮平 望 著 (みやひら・のぞむ氏は西南学院大学文学部教授)

### 「影の宗教」としてのデイズニーランドに迫る。

膨大なデイズニー関連文献を徹底的に踏破し、ウォルト・デイズニーその人の生い立ち、キャリア、信仰・思想から、そのテーマパークの構造と機能、宗教性に到るまでを明らかにする。東京デイズニーランドとデイズニーシーの年間入場者数は史上最高の1551万人を突破した。開園から35年を経てなお衰えぬ人気秘密は何か？ 発祥の地アメリカのみならず全世界の大衆文化に絶大な影響を与え続けるデイズニーワールドの力とは？ ◆A5判・264頁・本体2000円



12月20日発売

同じ著者による本

神の和の神学へ向けて 三位一体から三問一和の神論へ

◆320頁・本体2400円

ジョン・マクマレー研究 キリスト教と政治・社会・宗教

◆233頁・本体2400円

現代アメリカ神学思想 増補新版 平和・人権・環境の理念

◆323頁・本体2800円

◆関連書

ポップカルチャーを哲学する 福音の文脈化に向けて

高橋優子 著

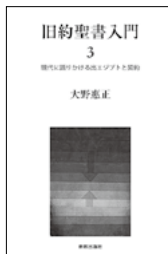
◆220頁・本体2000円

日本のポップカルチャーに頻出するキリスト教的なシンボリズムをとりあげ、そこに底流する福音の現在形を解き明かした講義録。ジブリから村上春樹まで全24作品を紹介。

# 旧約聖書入門 3

1月25日発売

大野恵正 著 現代に語りかける出エジプトと契約



聖書を分かりやすく、かつ格調高く語ることに定評ある著者が、研究者、教師、そして牧師として旧約聖書から受け取った豊かなメッセージを現代人に取り次ぐ。旧約聖書入門の定番となるシリーズ。全5巻予定。

◆小B6判・368頁・本体1900円

●好評既刊  
 おおの・よしまさ氏は1939年、東京に生まれる。東京神学大学大学院修了(旧約聖書学)。新共同訳聖書の翻訳に関わる。活水女子大学名誉教授。

## 旧約聖書入門 1

現代に語りかける原初の物語

◆273頁・本体1800円

## 旧約聖書入門 2

現代に語りかける父祖たちの物語

◆368頁・本体1900円

【目次より】

- 序 聖書は旧約書と新約書とでなりたっている／1 旧約聖書の成り立ち／2 「出エジプト記」の構成／3 エジプトのイスラエル人／4 モーセの誕生と生育／5 モーセの召命／6 モーセの人間像／7 十の災い／8 過越の祭、エジプト脱出、「海の歌」／9 荒野の旅／10 シナイでの神顕現・十戒・契約の書・契約物語／11 真の神礼拝／12 献げものの規定と祭司の聖別／13 清いものと穢れたもの／14 大贖罪日／15 神聖法集

### ●オンデマンド化された直近の本

## バルト 和解論Ⅱ/4

A5判・448頁・本体9400円

第67節「聖霊とキリスト教団の建設」および第68節「聖霊とキリスト教的愛」。人を生かし、神の証人として献身させる力としての聖霊。

バルトの教会教義学は全巻オンデマンド化されました。

## バルト 和解論Ⅳ

A5判・378頁・本体9000円

バルトの洗礼論。「和解者なる神の戒め」の主題で展開される倫理学の一部だったが、完成されず、生前これのみが〈断片〉として刊行された。

## テイリッヒ 組織神学 第三卷

A5判・570頁・本体9500円

第4部「生と霊」、第5部「歴史と神の国」。

新教出版社編集部編

## 統べるもの／叛くもの

統治とキリスト教の  
異同をめぐって

身体にたいする統治の原型であり、統治に叛く力能でもあるというキリスト教の二律背反をめぐり、佐々木裕子・堀江有里・要友紀子、白石嘉治・栗原康・五井健太郎、気鋭の論者が大胆に語りあう。

◆四六判・予価2000円

滝沢克己協会編

## 今を生きる滝沢克己

生誕110年を記念し、16名の論者が多様な観点から滝沢思想のアクチュアリティに迫る。

◆四六判・本体3200円

後藤田典子著

## 新たな約束

新約聖書に学ぶ神の招き

中学3年生を想定した教科書。長年金城学院中学校で教鞭をとってきた著者の経験を存分に生かした新約聖書入門。単なる知識の教授にとどまらず、新たな価値観に基づく生き方を考える。

◆A5判・予価900円

関口安義著

## 評伝 矢内原忠雄

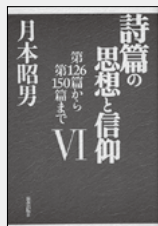
新渡戸・内村の薫陶を受け、伝道を志しつつ、経済学者として優れた業績を上げ、軍国日本と対決して野に退き、戦後は東大総長として再建日本の精神的指導に挺身した無教会キリスト者の生涯を、綿密な調査を基に描きあげた1100枚の大作。

◆A5判・予価8000円

● 12月に出版の本と雑誌

## 詩篇の思想と信仰VI

日本昭男著 第126篇から第150篇まで



厳密な私訳、詳細な語釈、各詩篇の構造と成り立ちの分析、そして思想と信仰について、行き届いた解説を施す。古代オリエント学に通暁する著者にして初めて可能となった注解。

◆四六判・本体3400円

## カール・バルトの愛と神学

ペーター・ライヘンバツハ制作 カール・バルトの生涯



を、自身の証言や関係者のインタビューで迫る。助手キルシュバウムとの恋愛も正面から取り上げ、神学と実人生との関係を考察する。福嶋揚氏のエッセイ等を収録したブックレット付き。

◆DVD1枚+A6判ブックレット24頁・本体3700円

## 福音と世界

◆税込635円

1月号 生きるためのフェミニズム

寄稿者・菊地夏野、栗田隆子、渡邊さゆり、飯野由里子、要友紀子、セイラン・アテシユ／松本あずさ、森宣雄、長谷川修一、石井光太、北村早樹子、山口政隆、辻学、内田樹、芦名定道、佐藤優

●昨年、『福音と世界』トークセッションを開催してからとくに、キリスト教とは直接関係のない研究者や編集者の方と交流する機会が増えてきました。みなさんとたびたび同席するなかでは、じつは内心舌をまいています。いまのじぶんとは視野が違いすぎる、というのが正直なところです。エコロジーや反戦運動、あるいは蜂起など世界のリアルな情況に学びつつ、では翻っていま日本でなにが書かれる／読まれるべきかを見定め、適切に介入する、そうした知性に裏打ちされた世界を目の当たりにして、圧倒されてしまうのです。

●2018年の新刊は左の21点でした(新装版を含みます)。ご希望の方には新しい図書目録を進呈いたします。(小林信仰の基礎としての神学(松田央)／神と向き合って生きる(横田幸子)／カルヴァン政治思想の形成と展開(住田博子)／現代アメリカ神学思想 増補新版(宮平望)／聖書翻訳者ブーバー(堀川敏寛)／キリスト教の再定義のために(荒井献)／歴史から世界へ(八谷俊久)／バルト・セレクション6／聖書の風景(岩井健作)／新約聖書と神の民下(N・T・ライト)／バルト自伝／南島キリスト教史入門(一色哲)／クエーカー入門(ダニデライオン)／エフエソ書を読む(石田学)／イエスのたとえ話の再発見(エレミアス)／ルターはヒトラーの先駆者だったか(宮田光雄)／剣を収めよ(デア)／もうひとりのはかせ(ヴァン・ダイク)／わたしの信仰(メルケル)／アメリカ現代神学の航海図(栗林輝夫)／詩篇の思想と信仰VI(月本昭男)

●「救い」をめぐるたたかい 箱田 徹  
Face Valueの時代の生と倫理 清水知子  
ストレスチエックと生権力 美馬達哉  
権力による生殖への介入——優生保護法による強制不妊手術をめぐって——大橋由香子  
「ファクション」と「フレフレわたし」の美学 後藤吉彦  
——生権力と抵抗について——

●他方でじぶんはというと、つい考えがちなのは「キリスト教出版として」ということです。つまり、キリスト教的に語ったり、キリスト教について取り上げたりしないといけない。そのふたつを範とする一方、キリスト教的に語るのが難しいことは避けて通ってきた感が否めません。しかし、避けることが許されない問題もこの世界にはあるはず。それについて、キリスト教との関連がどうあれ、やはり取り組まないといけないのではないのでしょうか。キリスト教の視点から考える、キリスト教を自己批判する、このふたつはこれまででも行なってきた

●「文明の恐怖に直面したら読む本」  
《報告》「真に包括的な教会」のために共に歩く 大川大地  
《応答》時間をクイアするということ 安田真由子  
【好評連載から】  
●福音書記者の饗宴 2 松本あずさ  
●遺跡が語る聖書の世界 2 長谷川修一  
●わたしはロックがわからない 5 山口政隆  
●野に咲く民衆の神学 11 森 宣雄  
●福音の地下水路 16 岡 映里  
●現代神学の冒険 29 芦名定道  
●レヴィナスの時間論 46 内田 樹  
●新約釈義 第一テモテ書 36 辻 学

# 福音と世界

2019年  
2

特集・生権力とキリスト教

A5判・80頁・定価635円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8460円